

幹部からのメッセージ

北條 憲一

職業安定局 雇用開発課長

主な経歴

昭和59年：労働省入省
昭和60年：総務庁 青少年対策本部
～若者の生活志向調査、父子関係国際比較調査などの企画と実査を担当
平成2年：職業安定局 業務調整課 職業紹介係長
～レディス・ハローワークの開設等を担当
平成4年：ハローワーク釧路所長
平成18年：職業安定局 就労支援室長
～ネットカフェ難民実態調査の実施、日比谷派遣村政府側対応、住居喪失不安定就労者に対する就職安定資金制度の創設、生活保護受給者や刑務所出所者の就労支援事業を担当
平成22年：職業安定局 首席職業指導官
～ハローワークの職業相談業務の総責任者
平成26年：現職（平成26年9月現在）

■人間科学職とは

厚生労働省の「人間科学職」は、昔「心理職」といいました。戦後、公的な職業紹介機関における職業相談をアメリカにならって科学的に行うための専門職として採用され始めました。わかりやすく言えばカウンセリングのテクニックや職業適性検査を研究してそれを現場に生かせるよう実践的な指導を行うという役割です。しかしその後、その職域は人間と職業との関わりに関する幅広い範囲に広がっていきました。

例えば「キャリア・コンサルティング」。これは、人が学

生生活から職業生活に入り、その中でキャリアを形成しながら人生を全うしていくというプロセスの中で、その各場面で様々な相談支援を行っていくことに関する広い概念です。職業相談もその中に含まれるのですが、この分野はまさに現在の人間科学職の重要な仕事のテーマの一つです。そのほか、障害者の方などに対する就労支援、フリーター・ニートなどの若年者の職業問題、職業能力の評価・開発など、人間科学職の専門分野は幅広く多岐にわたっています。

■広がる担当分野

近年心理職は人間科学職へと衣替えをしましたが、この背景には、職業の分野と「福祉」「教育」「社会」などの分野との間の連携を求められていることがあります。例えば、障害者や生活保護受給者の方の職業的自立をどうやって支援するかという観点から、近年「福祉」と職業の連携が求められています。まさにここは人間科学職の出番です。また人が自分の可能性を生かせる適職を見つけるためには、学生の頃から適切な職業意識を身につけることができるようキャリア教育を推進していく必要がありますが、ここには「教育」と職業の連携が求められます。また人と職業の関係を考えるためには、職業を探す個人の自己理解を支援するというアプ

ローチだけでなく、企業が労働者をどのように雇用していくのかという面も考えなければなりません。その意味で職業が「社会」の中でどう変化していくのか、例えば終身雇用制はどう変化していくのか、そのために私たちはどういう新しい社会の仕組みを作っていかなければならないのか・・・ということを考えることは大変重要なことです。こういう意味で、厚生労働省の人間科学職は、個人の意識・適性・能力などを深く掘り下げて考えることのできる「心理」の分野を専攻した方のみならず、「福祉」「教育」「社会」などの分野を専攻した方などの幅広い視点や能力を求めています。

■人間科学職の仕事は面白い

私は学生時代心理学を勉強していましたが、心理学専攻の学生の多くがそうであるように個人の心理プロセスに興味があり臨床心理学系の仕事を志していました。いろいろ考えた末、労働省を選んだわけですが、実際にこの仕事に就いて、人間に関わるいろんな仕事ができる本当に面白いなあと思います。

職業相談やカウンセリングの技法開発やその現場指導・実践の仕事もありますが、研究的な仕事でもできますし、組織の管理者になってどうやって職員の意欲を引き出すかという産業心理学の実践によるマネジメントの仕事もあります。留学や外国の日本大使館に勤めたり、出向してカウンセラーの仕事をすることもできます。それから何よりも、世の中の動きをよくみて現場の関係者からいろんな話を聞いて、物事を良くするためのいろいろな制度（例えば新しいサービスや事業で

あったり、新しいルールや組織であったり、補助金や助成金の制度であったり、関係者が交流して新しい価値を生み出せる「場」であったり・・・）を作り出し改善していく企画的な仕事—これを「政策立案」といいますけれども—そういう仕事を自分からどんどんできる、任せてもらえるところが大変な魅力だと思います。人を幸せにするためには、課題を抱えた個人に対して相談していくアプローチもおもしろいですが、じゃあどういった人にどういう相談をすればよいのかを考えてそれを実現するためにどんなしくみを整えていったらよいかを考えていく—対個人のアプローチを対社会システムのアプローチに結びつけていくような仕事もとてもおもしろくやりがいを感じます。

これをご覧になっているあなた！私たちと一緒に仕事をしませんか！

キャリアパス（人間科学職に求められること）

厚生労働省は福祉・医療・雇用などの面から「人」の一生に関わる仕事を担当していますが、人間科学職は中でも特に人が人生の時間の多くを費やすことになる「職業」をめぐる、専門的に追求していく仕事を担っています。

課題を抱えた個々の人間に対して直接向き合って一つ一つ解決していく個別支援の手法もありますが、むしろ人間科学職には、公共政策を企画立案したり、さまざまな部署や関係者との調整を行ったり、現場の業務に対する指導を通じてこれを実現していくことが求められます。

個別支援の手法を理解したうえで、さまざまな事業・業務・制度・助成金・補助金などの仕組みを創設・改善したり、関係団体などとの連携の体制を構築したり、事業主や国民に対する指導・啓発を進めたり、あるいは現場で用いられる診断・評価・相談・カウンセリング・指導などの手法を開発してさまざまな技法・ツール・マニュアル・データベースなどを構築したり、現場の相談機能がうまくワークするよう効果的な指導を行ったり組織マネジメントの方法を検討したりすることなどを通じて、それを成し遂げていくことが求められているのです。

このため人間科学職には、まずは「総合職」としての企画立案の能力、調整の能力、指導能力などが求められます。さらにこれを突き詰めていくと、積極性、理解力、説明力、論理構成力、リーダーシップ、コミュニケーション能力などが求められることになります。

課長・首席職業指導官クラス以上

都道府県労働局長として地方労働行政の総責任者となる場合があります

室長・企画官クラス

課長補佐クラス

都道府県労働局や独立行政法人の管理職としてマネジメント業務に従事する場合があります。

係長クラス

（5年間程度～）

係員クラス

（4年間程度～）

（注：この図は一例であり、本人の能力・適性、勤務成績、希望などにより異なります。）